

**EDOGAWA
JINSEI DAIGAKU
DOUSOUKAI**

同窓会だより

第17号 平成26年4月17日

江戸川総合人生大学同窓会発行



**各ボランティアグループがどのような活動をしているか等をお互いに知り合う機会・場所を作る。
お互いに困ったことや悩み・楽しいこと・うまくいっていること・やりたいことなど
情報を発信・提供しあうことによりコミュニケーション&パワーアップを図る。**

人大ボラ連 1歩前へ

原点回帰

1月30日(木) 人大ボラ連全体会議が 篠崎コミュニティホールで開催されました。
谷口会長挨拶、活動部会メンバー紹介、新規加盟グループ紹介に続き、
「原点回帰 そして1歩前へ」と題し「小岩ほほえみの会」の詫間さん
植草さんをお迎えし、立ち上げから終止符をうたれるまでの貴重な
体験をうかがいました。

介1のメンバーが1年の準備期間を経て設立したこの会を、後輩たちがモデルにしていたことを、この日改めて感じました。



たにぐちさんの つぶやき (新コーナー)

『弱音をはくな 強気になれよ』

カラオケ好きの私は、福田こうへいの「南部蝉しぐれ」の一節を思い起こします。同窓会会長の責任の重圧に耐えられなくなりそうになった時に、元気を与えてくれる言葉です。ボランティア活動は楽しくなければ負担になるもので、長続きはしないでしょう。

第7期の活動の基本はスローガンに「同窓会会員一人一人が、ゆとりを感じ、生きがいを感じる事ができる活動を目指します」としました。

皆さん! あまり頑張りすぎないで、各自の役割を果たしながら、ゆとりと生きがいを感じその結果として、同窓会活動に達成感を得られるようにしたいものです。



第4代会長 谷口 祝三 (介6)

人大ボラ連全体会議より

参加者の言葉から

「参加してくれた方が喜んでいて姿に元気をもらいます。ボランティアをすることが私に元気をあたえ、楽しみになっています。」

「活動を始めた頃はメンバーがそれぞれ知っている方に声をかけていました。何回か開催するうちに口コミで利用者さんが来てくださるようになりました。」

「細く長く続けることが大事だと思います。人とつながることが大事。」

「小岩ほほえみの会」の皆さんにお礼を言いたい、という後輩が多く参加されていました。



参加者からの質問・提案

「名簿があれば活動のお手伝いを頼むことができた。」

→ 名簿は作成し、ご案内しています。「同窓会だより 14号」にも掲載しています。

「人大卒業生だということが地域の方にはなじまない時もあるようだ。」

→ 小学校・共育プラザなどでは、それが信用になることも多い。

「施設の場所が取りにくい。」

→ ボランティアセンター・健康サポートセンターなどに相談しては？
活動を説明する資料なども用意したほうが良い。



さまざまな質問に、参加者の中からアドバイスがかえってきました。

事務局より（当日参加して・・・）

1月30日人大ボラ連全体会議に参加させていただきました。

会議では、「小岩ほほえみの会」より設立時の工夫や苦勞、そして残念ながら解散に至ったお話を伺い、胸が熱くなる思いがしました。地域に愛され、必要とされているにも関わらず、解散を余儀なくされたことを思うと、介護1期のみなさんの気持ちを引き継ぐことができなかつたことが悔やまれてなりません。

今後このような思いをしなくてすむよう、人大ボラ連の設立に感謝し今後の活躍をおおいに期待します。

人大ボラ連・同窓会活動報告



同窓会4期から引き継ぎの中に、「あったか地域大家族！」への同窓会としての支援がありました。これをきっかけに同窓会の支援・人大ボラ連というつながりができました。

2012年

- 4月 第1回 ボランティア連絡会「設立会議」 30グループ参加
- 6月 「ひろげよう つながろう 地域活動の わ！」
- 10月 第2回 ボランティア連絡会「連絡会議」 40グループ参加
「江戸川総合人生大学同窓会 支援規程」 クラス幹事会において制定
- 12月 「クリスマスファンタジーサロンコンサート」を支援

2013年

- 3月 在校生と人大ボラ連の集い 第1弾 12グループ参加
篠崎図書館主催「春の朗読会」にて江戸川総合人生大学朗読会を支援
- 12月 国際交流エドガワ主催「忘れないで気仙沼チャリティイベント」後援
「クリスマスファンタジーサロンコンサート」を支援

2014年 2月に事務局として「人大ボラ連世話人会」が発足しました。

わかりやすい「人大同窓会支援規程」

人大同窓会では、会員が所属する団体や個人に、行事・活動の共催・後援・協賛・協力を行うための「支援規程」があります。原文は11条までであるものです。

- ・ 主催者が会員であること。区内でボランティア活動をしている団体・個人であること。活動が同窓会の活動に反しないこと。
- ・ 支援の仕方は次の通り。
 - 共催 同窓会と団体・個人が 企画・運営・会計など共同の責任と権限を持つ。
 - 後援 団体・個人の企画などの趣旨に賛同し、一定の支援を行う。
 - 協賛 団体・個人の活動の趣旨に賛同し、役務提供などを行う。
 - 協力 団体・個人の活動の趣旨に賛同し、名義の使用許諾など、一定の便宜を図る。

申請の窓口は、総務部会です。役員会（会長・副会長・部会長・会計・書記）で検討します。大きなイベントの場合は、役員会の決定をクラス幹事会に諮り同窓会の決定とします。

活動・行事の企画・運営（内容決定・場所確保・レイアウト・チラシ配布・チケット販売・当日の準備や受付・会計など）、もちろん中心となるのは、各団体の皆さんです。お互い助け合うことが同窓会の活動のひとつではないかと、「支援規程」ができました。

「第6回 歌声談話室・研修会（最終回）」

ありがとう！ふれあいの輪

3月31日新川さくら館で開催されました。2006年10月より活動を始めた同会は高齢者施設を訪問し、懐かしい歌を披露するだけでなく、利用者と一緒に歌い会話を楽しむ活動をしています。訪問回数は現在312回。

1年に1回行う研修会は、交流のある団体が参加し日々の活動を発表しあいます。

この日も開会宣言に続き、ハーモニカ・歌・手作りオルゴール・パネルシアター・琴・工作・手品・かっぽれ・インドダンス・シャンソンと様々でした。

昨年活動を休止した「小岩ほほえみの会」から引き継いだ歌集から全員で合唱。そして、復興応援ソング「花は咲く」を合唱し閉会となりました。

「研修会は最後になりますが、『歌声談話室』の活動は続きます。よろしくお祈りします。」と代表・千倉洋子さん（介2・子5）が笑顔で挨拶されました。



参加団体：歌声談話室 劇団5期 介護2期生 江戸川インドダンサーズ

なぎさ和楽苑ふれあいシャンソンコンサート

たんぼぼの会(障がい児琴サークル) & お友達

会場設営から受付、そして進行を歌声談話室メンバーと交友のある方たちで楽しみながらこなしていることに敬服しました！



第7期広報部会

小杉裕子（子5） 白井昌夫（江7） 新民子（介3）

土本貞子（国3） 矢作弘子（国3）

昨年6月に発行した14号では、「みんなの活動報告」としてボラ連加入団体の一部を紹介しました。そして、ボラ連加入団体の名簿を掲載させていただきました。

17号では、1月開催の全体会議を中心に、「支援規程」などをご紹介します。詳しく知りたい方は、ホームページをご覧ください。クラス幹事を通じておたずねください。

<http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>

「同窓会だより」は皆様からお預かりした会費から作っています。